

にいがた

北から南から



んぶん赤旗』9・27)で十分解明されていま
す。

『朝日新聞』のトップは動揺しているよう
ですが、朝日には優秀な人材が目白押しです。
極右勢力の攻撃にたいして賢明な反撃を成功
させるでしょう。

以下はそれらの記者や毎日のように、ツイッ
ター・ブログをたよりにしている知識人たち
です。田中宇、孫崎享、金子勝、「世に倦む
日々」、有田芳生、冷泉彰彦、酒井啓子、宋
文洲、藤原直哉、本田宏、水島朝穂、五十嵐
仁、駒木明義、吉岡桂子、金順姫、大久保真
紀、「めいろま」、大隅典子、小野昌弘、伊東
乾。

ネット情報はわたしの思考回路の糧になっ
ています。

(まきの ひでき・新潟市)

「南京再訪」

菊 埼 威

今年の6月に中国南京市を訪れた。昨年7
月に離れて以来1年ぶりのことで、勤務して
いた大学の卒業式に参加するためである。

生まれ育った故郷に帰るとき、見慣れた風
景が目飛び込んでくるにつれ、妙に胸が高
鳴るものだが、今回も似たような感情を味わっ
た。5年間も住み、日本では決して体験する
ことのない、さまざまな出来事に会ったせ
いだろうか、上海駅から新幹線に乗り南京駅
に近づくにつれ、高揚した気分になり、そわ
そわと落ち着かない。降り立った南京駅の人
混みも騒々しさもなつかしい。

卒業式は例年通りに始まった。学士服をま
とった卒業生が学部ごとに学部旗のもとに、



大きな体育館の2階席までびつしりと勢ぞろいしている。保護者の姿も見えるが、2階の回廊で立ち見である。午前午後と2回に分けて行われるマンモス大学の卒業式だ。

式場には横断幕が掲げられている。後方には「心系母校 志在四方 大展宏图 報効祖国」と「今日桃李芬芳 明天社会棟梁」とある。それぞれ「心は母校につながり、志は四方に、大望を抱きおし進め、祖国のために力を尽くそう」「今日の若者は香りかくわしく、明日は社会の有為な人材となる」とでも訳せようか。学長、学部長の居並ぶひな壇の下方には「祝同学们一路順利 前程以錦」と卒業生の前途が順調で輝かしいことを祈る言葉がある。例年とほぼ似たようなものだが、いずれも中国らしい檄である。

セレモニーが進み、別れの曲が流れるなかで、目に涙をためる学生が例年以上に目についた。思いの深い4年間を過ごした学生が多いのだろうか。

うれしいことに、わたくしが大学を再訪す

ると聞いて、昨年の卒業生が20人ほど泊りがけで集まってくれた。南京在住だけでなく、上海や遠く天津や北京から駆けつけてくれたものもいた。夕食をともしたのだが、隔てのない会話、心からの笑い、1年ぶりの再会のせいかもしれないが、飲むほどに酔うほどに、今までにないほどの彼らとの距離の近さを感じた。

そしてそれは彼らどうしにおいても同様であつたようで、心から再会を喜び歓談していた。その後彼らはカラオケに行き、在学時代によく歌った歌を涙を流しながら大声でなんどもなんども歌ったそう。

これを聞いて現代日本の若者はどうだろうかと考えた。はたしてここまで感情をあらわにして喜びを分かち合うだろうか。そしてまた、中国の若者がこれほどまでに感情を高ぶらせるのはどうだろうかと考えた。

彼らは日本の中学生や高校生を描いたドラマを見たり、わたくしの話す日本の高校の様子を聞いたりして、よく羨ましがった。いわ

にいがた

北から南から



く「中国の高校生には青春が無い」と。寮生活をしている彼らは、早起きをして、始業前に自習室で学習をし、8時から午後5時くらいまで授業を受け、夕食後はまた自習室で学習をするという、まさに起きてから寝るまで教科書と首つ引きの生活をしている。彼らにとつての学校とは学習すること以外の何ものでもない。だから、日本の高校生が部活で汗を流したり、友情をばぐくんだり、恋愛したりすることは彼らにとつてはまったく異質な世界なのである。

日本では部活や体育祭などで活躍する生徒に人気が集まるが、中国では成績の良い学生が評価が高い。そういう高校生活を送ってきた彼らは、大学に入ると、一転して自由な時間の中に放り出される。サークル活動も恋愛も自由である。ある卒業生が言った。「わたしたちにとつて大学はまさに青春そのものです。ここには友情、恋愛、感動がある」と。中国の大学生にとつての4年間は日本以上に濃密なものかもしれない。

「先生、来年もまたみんなで会いましょう」と再会を約した。

(きくさき たけし・長岡市)

多くの人と「原発ゼロ」を
実現したい

安保サイ

「原発ゼロ」は当たり前前の願い

健康で安全に暮らしたい、という思いは、これまでも様々な公害によって、幾度も言い難い苦しみを伴いながら、打ち砕かれて来ました。その度、当該者の人びとはその不正に気づき、支援の輪を広げ、勇気を出して闘って来ました。その闘いは、その苦労や努力とともに、大地、水、空気という命を支えるもののかげがえのない大切さを私たちに教えています。